

新堀二丁目自治連合会（埼玉県）

皆さん、こんにちは。私たちは、埼玉県新座市からまいりました新堀二丁目自治連合会の会長、森田、そして小糸と申します。本日は、大変貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございます。市長に今日の参加を話したところ、大変名誉なことと喜んでくれました。本日は市の職員も応援に来てくれています。

私たちは日々、安全・安心で快適に暮らせる住みよい街づくりをモットーに邁進しております。それでは私たちの活動をご紹介します。



私たちの活動地区は埼玉県南部の新座市にあり、人口は16万6000人です。人口730万人の埼玉県で、10番目に大きい市となります。



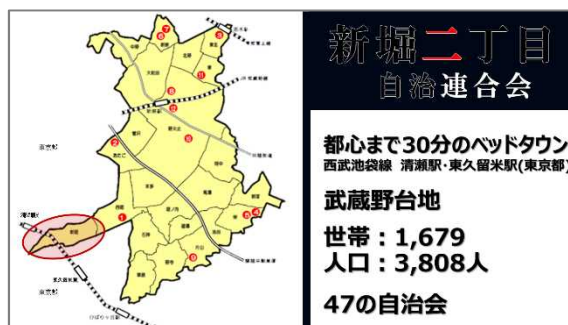
新座市は地域の半分が東京都に接しているが、自然豊かな武蔵野の面影を残す数少ない土地であり、野火止用水により発展した街です。

新座市内には野火止緑道、本田緑道、平林寺、妙音沢などの名所があり、四季折々に観光を楽しむことができる、魅力のある街です。特に平林寺は、上皇、上皇后が訪れたことでも有名です。



次に、私たちの暮らしている新座市の新堀二丁目についてご紹介します。

東京都につき出した地形で西武鉄道の清瀬駅まで8分、東久留米駅まで18分、また都心まで30分前後と便利なところで、過去に東京のベッドタウンと称された地域です。現在1679世帯、3808人の住民が武蔵野台地に支えられた場所で暮らしております。



それでは、団体の概要についてお話しします。新堀二丁目自治連合会は47の自治会が集まり、5つのブロックに分かれ、役員5名と、毎年新たに選出される11名のブロック幹事により、町内にある「新座市立新堀ふれあいの家」を活動拠点とし、一体的な町会活動を実施しています。

私たちの活動について、ご紹介いたします。主な活動の1つ目は、防犯パトロールです。防犯パトロールは、毎月の夜間パトロールや、ながら見守りを兼ねたわんわんパトロールなど、住民、皆で取り組んでいます。これらの防犯パトロールに関しては、後ほどご紹介いたします。

2つ目は、子供見守り活動です。

子どもの安全確保のため、登下校の見守りは欠かせません。子どもたちの笑顔が私たちの楽しみでもあります。

休校日を除いて、登下校がある日は毎日実施しております。



3つ目は、環境美化活動です。

年2回、町内清掃の日を設けています。毎回450名ぐらいの大人・子どもの協力を得ています。ごみや落ち葉を清掃して環境美化に努めることは、気持ちよく暮らすためだけでなく、街の治安の維持にもつながると考えています。

4つ目は、情報共有です。

47の自治会の連合会ですので、町会を運営する上で、情報共有の難しさもあります。しかし、堅実な組織運営により、会員の理解を得ています。

月に一度の幹事会では各種活動計画、内容、結果報告等を行い、情報共有を図っております。ここでは予算関係はもちろん、防犯や防災などの活動についても話し合いが行われます。



それでは、防犯パトロールの夜間パトロールや、新堀わんわんパトロール隊について、詳しくお話しします。

夜間パトロールについては月1回、毎週土曜日に実施しています。ブロック幹事を中心として、10名から15名が2班に分かれて、町内全域をゆっくり、じっくりパトロールしております。危険箇



所の点検、不審者の発見や街灯の点検を主に行っております。町内の街灯は町会設置が103灯、新座市設置が145灯となっており、点検はパトロールの一環となっています。

ここで、町会費についてのお話をいたします。

町会設置の街灯は、これまで蛍光灯でした。パトロール中に、毎月、何灯も切れている状態が続き、パトロールの負担となっていました。しかし、2014年から2年間の予算措置で、全ての街灯をLEDに変更してから球切れがなくなりました。修繕費は年15万から20万円も削減しました。



また、使用料金の市の補助は、蛍光灯もLED灯も、いずれも月額125円です。ところが、使用料金は蛍光灯が299円、LED灯は152円です。LED灯に変えたことにより、年間18万円も町会負担が減りました。蛍光管の修理費と合わせれば、年間30万円以上の支出削減です。LED灯への交換費用負担は、103灯で100万円です。しかし、4年間で償却できますし、その後の器具交換や会費運営にも貢献いたします。

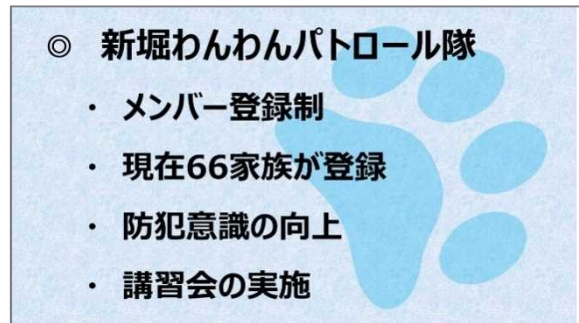
先般、6月からの料金値上げが、電力会社から通知されました。蛍光灯は月額299円が548円に、83%アップ。LED灯は月額152円が207円に、27%アップとなりました。これを機会に、まだ蛍光灯の町会は、LED灯に交換することをお勧めします。



新堀わんわんパトロール隊について、ご紹介します。

新堀わんわんパトロール隊は、新堀地区の防犯意識の向上を目的としたボランティア活動です。

新堀地区に住む愛犬家の協力のもと、愛犬の日常の散歩の際にパトロール腕章を装着してもらいます。



平成26年から93家族が登録。転居や犬の死亡で、現在は66家族の方に登録していただいております。自発的な活動を行っております。活動に際しては自己責任としていますが、活動中の事故に備え、新座市が全額負担のボランティア保険に登録しております。現在まで2名の隊員が利用しました。

事務局は新堀二丁目自治連合会防犯部内に置かれ、「新堀わんわんパトロール隊運用要領」に基づき、メンバー登録をして名簿化しています。メンバーを対象とした部外講師による防犯講習会等も実施しています。



警察犬訓練所から講師を招き、愛犬の飼い方や防犯講習を開催しました。この様子は、ケーブルテレビでも紹介されました。

次に、イエローチョーク作戦をご紹介します。
 隊員には黄色のチョークを持って散歩してもらいます。隊員はビニール袋を持って散歩しますが、犬の糞を放置したまま去っていく飼い主もいます。その際には、チョークで路面に丸を描いて囲み、日付を記入します。翌日も撤去されていなければ、再度チョークで書き込みます。散歩コースは概ね同じコースのため、不始末な飼い主は恥ずかしい思いをしたいと思います。



普段から、隊員には防犯はもちろんのこと、環境美化活動にも協力してもらっています。
 また豆知識として、塀や電柱など、「ここにおしっこをかけられたら嫌だ」という場所には、お酢をかけてみてください。犬が嫌がって、そこではしなくなると思います。

新堀わんわんパトロール隊の、ペット同行避難訓練を実施しました。東日本大震災の際にも、避難時のペットの置き去りが問題となっていました。有事の際の、ペット同行避難がスムーズに行えるようにと、ペットと一緒に避難訓練を体験していただきました。



同行避難に際しては、ケージ、キャリーケースに入れて同行し、リードだけのペットは受け入れできないこと、ペットの世話は飼い主の責任とし、エサや飲料を飼い主が持ち込むこと等を基本として、「ペットを守るのは飼い主だけ」を実感してもらいます。こちらの様子もケーブルテレビで放映されました。

このような活動をすることにより、有事に備える知識が得られ、それとともにパトロール隊の輪が広がり、より強いパトロール隊になると思います。



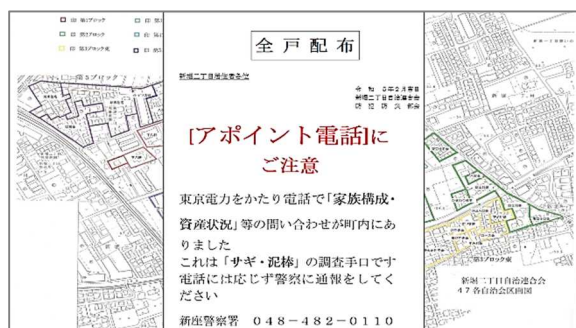
次に、情報共有の重要性ということで、警察と連携した特殊詐欺被害防止活動についてお話します。

犯罪被害防止活動では、やはり高齢者を狙った特殊詐欺被害が死活問題となっております。新堀二丁目地区では令和3年度中の詐欺被害が4件も発生し、由々しき事態となっていました。やはり、私たちの街で被害が発生することは、とてもつらい出来事です。

情報は、熱いうちに町内で周知させることが必要です。新座警察署生活安全総務係の担当者とは適宜連絡を取り、予兆電話や被害発生などの情報をいただいた際には、すぐにチラシを作成し、全戸配布する体制をとっております。

全戸配布は決して楽なことではありませんが、47の自治会、5ブロックの幹事に配布することで、全戸への配布を迅速に行うことができます。このチラシにより、自分の住む地域に対して犯罪の魔の手が伸びてきていることや被害の発生を知れば、防犯意識の向上を望むことができると思います。通常では、回覧板や町内掲示板を利用して、防犯や防災などのお知らせを周知しています。また、新座警察署や新座市役所の協力をいただき、避難訓練、防犯・防災講習を継続的に実施することで、会員の防犯知識向上を図っています。

「アポイント電話にご注意。東京電力を騙り、家族構成・資産状況の問い合わせがありました」。このようなチラシを作成し、より早くブロック幹事を通じて、全戸への配布を実施しています。



令和3年の被害を受け、新座警察と対策案を話し合いました。新堀二丁目は、新しい住宅も増えていますが、古くからの住宅も多く、その中でも特に高齢者が集中している地区を選出し、重点的に戸別訪問することにしたのです。

ただ、チラシを配るだけでは、現在の巧妙な手口の詐欺は防げないと考え、新座警察署からのご提案で、特殊詐欺予防おしゃべり人形「あんしんみーちゃん」を、地元の新座事業所防犯協力会にご用意いただき、希望者の家に、責任者自らが電話機に設置することで、被害の防止レベルを向上することができました。この「あんしんみーちゃん」とは、着信があると胸のブローチが点滅し、9種の警告メッセージが流れる被害防止対策グッズです。

また、新座市では、防犯メッセージが流れる電話機への買い替えを補助しています。私も1万5000円の電話機に買い換えましたが、個人負担は3000円でした。令和4年度は490件、668万円の補助金が使われました。ちなみに私どもの町会では、26世帯がこれを利用しました。



これ以上被害が増えることがないように、警察、町内会が団結し、高齢者宅を一軒一軒回り、特殊詐欺に対する防犯対策を会員に伝えました。その結果、昨年から現在まで詐欺被害0件を維持しております。地道な活動を継続してきたことにより、大きな効果があったと言えます。

現在でも、予兆電話がかかっていることから、予断を許さない状況です。これからも継続的に、高齢会員に寄り添った防犯対策を行いたいと思います。



私たち新堀二丁目自治連合会の課題と、現状行っている解決策についてお話しします。

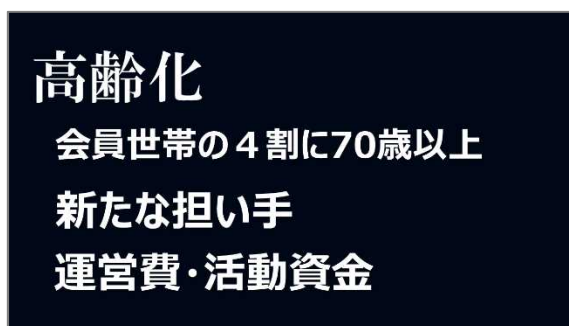
現状の新堀二丁目自治連合会では、「高齢化」という課題があります。全国的に見ても超高齢化社会が進む中、私たちも他人事ではありません。当面の課題として、高齢化により町内会行事や防犯活動に参加することが、困難になってきています。

新堀二丁目には、会員世帯数 1098 世帯の 4 割に、70 歳以上の高齢者が居住しています。新たな担い手や、運営・活動資金の確保が、安全・安心で快適に暮らせる住みよい街づくりには、必要不可欠となっております。

街の高齢化といえど、高齢者も住みやすい街でなくてはなりません。令和 2 年度の話になりますが、コロナ給付金申請に際し、コピー機を使えない高齢者も多くおり、コンビニの店員さんに迷惑をかけることが想定されました。そこで町会が特設テントにコピー機を設置して、町内の有志が、自治会員はもちろん、非会員にも、申請書類の作成やコピーなどのサポート活動を実施しました。そこでは約 100 件の利用がありました。

解決策の 1 つとして、若者世代へのアプローチをすることで、新たな担い手を確保したいと考えています。

若い親の世代に町会活動への関心を促し、参加を得られるよう、ビンゴ大会などの「子供夏祭り」や、体験型の「歳末子供餅つき大会」を開催しています。また、児童に入学祝いを贈り、多数の若い親の参加を得て、活動を広げています。中でも餅つき大会は非常に好評で、新潟からもち米 60



キロを手配し、毎年、行列ができるほどになっています。このような活動を通じて、町内会活動への敷居を低くすることで、幅広い世代に参加していただいております。



最後に、町内の運営資金の確保についてお話しします。

どこの街でも、集団資源回収を実施していると思います。私たちの街では、アルミ缶の回収は、町会と回収業者の契約で行っております。1kgあたり60円が、町会の収入となります。他の資源ゴミと合わせて、年60万円を上回る収入があります。

これにより、街灯のLED化の移行促進、経年劣化した看板の改廃などへの資金とし、町内で還元できる体制を整えています。年額1800円の町会費を徴収することで若い世代の加入離れにならないように、町会の資源は町会のために使用する体制を維持することが大切です。

私たちの発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。



講 評

常葉大学 教育学部 生涯学習学科 教授 木宮 敬信

ご発表ありがとうございました。また、大変洗練されたパワーポイントのファイルをお作りいただき、非常に参考になりました。ありがとうございます。

それでは、内容についてです。今回、特にポイントとなるのは、東京のベッドタウンであるというお話です。さまざまな方が混在されている地域なのだろうと思います。こうした地域では、昔から住んでいる方と新しい方とで温度差があったり、難しい状況が生まれたりといったことがよく見られますが、地域全体で、できるだけ絆を深める活動をされているのが、非常に参考になる部分だと思います。

ただ、一方でやはり若い方などは、そもそも自治会に入らないことも最近も多く、自治会の活動が、会員外の方々のサービスになってしまうという悩みを持たれる地域も数多くあります。先ほど高齢化の話もありましたが、今後も長く続けていくことについては、なかなかご苦労もあるのではないかと感じるところです。

防犯灯のLEDへの変更の話では、具体的な金額も示していただきました。他の自治会さんなどにも、非常に参考になる話だと思います。まだまだ進んでいない地域もありますので、今回ご発表いただいたような実際のデータをうまく広めていただいて、促進されるとよいと思います。

特徴的なところで、「わんわんパトロール」がありました。非常に面白いと思いました。犬の散歩を「ながら見守り」で活用することは、いろいろな地域で推奨されて、進んでいるところでもあります。しかし、個人の「ながら見守り」ではなく、「パトロール隊」として組織化して見えるようにすること、これは新しい試みだと思います。

そもそも犬は、「番犬」という言葉もあるように、防犯活動と非常に親和性があるものです。最近、「犬は室内で飼うものだ」という風潮に変わってきています。しかし、犬はもともとは、外で番犬として、家を守る存在でもありました。こうしたことを考えると、犬をうまくパトロールに活用することは良いアイデアです。

また、写真にもありましたように、犬がパトロールしていると、子どもたちや多くの方と、それをきっかけにコミュニケーションが取れたり、地域のつながりを深めるきっかけ作りになったりすることも、おそらくあるだろうと感じます。無理なくできる活動でもあると思います。この「ながら見守りを組織化する」ということも、1つの例として広めていけると良いのではと感じたところです。以上です。ありがとうございました。

防犯パトロールブルーライン（神奈川県）

皆さん、こんにちは。私たちは神奈川県厚木警察署管内を青パトでパトロールしている防犯団体「防犯パトロールブルーライン」と言います。これから皆さまに、我々の活動内容をご紹介しますと思います。短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



初めに、私たちの活動エリアについてご説明いたします。私たちは厚木警察署管内で防犯活動を実施しています。厚木警察署は厚木市、愛川町、清川村を管轄しており、神奈川県の中央に位置しています。厚木市に所在する本厚木駅周辺は商業施設が立ち並び、食事やショッピングを楽しむことができます。北上すると愛川町、清川村等に跨がる宮ヶ瀬湖というダムがあり、都会と豊かな自然が共存するエリアになっています。

厚木市という他県の皆さんは、「厚木基地があるところですね」とよくおっしゃいます。しかし、厚木市内には厚木基地はありません。厚木基地は、大和市と綾瀬市にあります。

B級グルメとして有名なのは、厚木シロコロホルモンです。こちらは皆さん、ご存じかと思います。

次に、活動エリアの特徴について、ご説明いたします。

左側の写真では、周りの風景が目に入ってこなくなるほど、中央の、火を出している男性が気になると思います。こちらは大道芸人です。その大道芸人がパフォーマンスしている、「にぎわい爆発！厚木国際大道芸」での写真です。国内外から


招いた一流のパフォーマーが、厚木に集結するイベントとなっております。このイベントは11月に開催されます。



右側は「あつぎ鮎まつり」の写真です。市内を流れる相模川では、鮎釣りが盛んです。例年8月に行われるこのイベントには、多くの人が集まります。コロナのために、縮小したり開催しなかったりした時期がありましたが、4年ぶりに、今年を行います。来る8月5日、6日で行いますので、ぜひ、お時間ある方はお越しください。

団体の概要

- 設立
平成23年に厚木青年会議所の有志が設立
- 会員数
30名(多数の事業主が在籍)
- 活動地域
厚木警察署管内(厚木市・粟川町・清川村)
- 活動内容
青色回転灯を装備した自動車(青パト)による警戒
- 青パト登録車両台数
専用車1台(自家用車11台)



活動内容

- 団体が管理する1台の青パトでパトロール
- 「停車場」というメンバーが管理する駐車場を設置し、週替わりで駐車場を変え、管内を均等に警戒
- ピーガルくん子ども安全メール等で不審者情報等を把握した場合には、SNSで情報共有し、団体が管理する青パトだけでなく、メンバーが青パト登録をした車両により警戒

停車場



続いて、団体の概要です。我々の団体は、平成23年に厚木青年会議所の有志が設立したもので、現在30名の会員がいます。保有する青パトの台数は、専用車が1台、自家用車が11台となっています。

次に、活動内容です。基本的には、団体が管理する1台の青パトで、防犯被害防止メッセージを流しながら、パトロールをしています。私たちは、その1台の青パトを効果的に活用するため、厚木警察署管内に「停車場」という、メンバーが管理する駐車場を4カ所、設置しています。そして週替わりで駐車場を変え、その付近に住んでいるメンバーが停車している青パトを利用してパトロールを行うことで、管内を均等に警戒できるシステムを構築しています。

また、神奈川県警察が発信する「ピーガルくん子ども安全メール」等で不審者情報等を把握した場合には、SNSを使って情報共有します。そして、団体が管理する青パトだけでなく、メンバーが青パト登録した車両によって、事案発生場所を中心とした警戒を自主的に行っています。

日中は仕事をしているメンバーが多いので、主に夜間に防犯パトロールをしているのが特徴となります。日中は行政さんなども青パトで回られているので、その穴埋めというわけではありませんが、うまく合致している活動ではないかと自負しています。

こちらは、先ほどお話した停車場のイメージ図です。実際の場所とは少々異なりますが、緑色の円の中にバツを書いた場所が停車場の位置です。その場所を1週間ごとに変えながら青パトを停車させます。付近に住む会員が、停車している青パトを使うことで、管内を均等に警戒することができます。



ご覧の通り、青い太枠の線で示した活動エリアの中に、だいたい均等に、エリアごとに停車場を設けています。その停車場の近隣メンバーが青パトを活用して、ムラなくパトロールをするイメージです。

続きまして、我々が抱える課題について、説明します。

課題は大きく分けて2つあります。1つ目は人員の確保です。団体の活動を継続的に維持するためには、一定数の人員を確保しなければなりません。しかし、メンバーの中には夜間に働いている方もいて、活動を強制することができません。

2つ目は、活動資金の確保です。主に青パトによる警戒活動を行っているので、車両の維持費、ガソリン代などの費用の負担が大きく、活動資金の確保が課題となっております。

課題

- 1、人員の確保
 - ・活動を維持するため一定人数の人員を確保しなければならない。しかし、夜間に働いている方もいて、活動を強制できない。
- 2、活動資金の確保
 - ・車両の維持費やガソリン代などの費用の負担が大きい。

人員を確保するための取組み

- 1、無理のない活動
- 2、活動の見える化
- 3、学生ボランティアの参加促進

無理のない活動にするための工夫

問題点	解決策
仕事と警戒のスケジュールが合わない	空いている時間に警戒してもらうなど柔軟に対応している。
警戒に使用できる青パトが少ない	メンバーの車両も青パトに登録してもらい活動が停滞しないようにしている。

我々は人員を確保するための取組として、「無理のない活動」「活動の見える化」「学生ボランティアの参加促進」を行っています。

まず、無理のない活動をするための工夫です。仕事と警戒のスケジュールが合わない場合には、無理して警戒活動をさせません。保有する青パトの台数が少ないため、メンバーの車両にも青パト登録をしてもらっているため、活動できるときに活動してもらうようにしています。メンバーの車両は、11台が青パト登録をしています。日中の仕事で車を使うときも、お客さんからお客さんの間を移動するときにも防犯の啓発などが行えるようにしています。

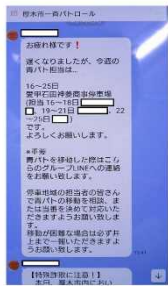
続きまして、活動の見える化です。SNSを活用して、事案の発生状況や活動報告をメンバー間で共有し、活動に参加できなかった人にも一体感を持ってもらえるように工夫しています。

また、活動報告をSNSで求めることにより、警戒日や警戒場所を各メンバーが確認できる「見える化」を図り、効率的な警戒ができる環境を構築しています。

学生ボランティアの参加促進としては、活動内容を周知するために、若者が情報収集ツールとして使うSNSやボランティアサイトを活用して情報発信し、若者が活動内容を把握しやすい環境を構築しています。

活動の「見える化」

- SNSを活用して、事案の発生状況や活動報告をメンバー間で共有
- 活動報告をSNSで求めることにより、警戒日や警戒場所を各メンバーが確認できる「見える化」を図り、効率的な警戒ができる環境を築いている。



学生ボランティアの参加促進

- SNSを活用した情報発信
- 参加しやすい環境づくり
- 表彰制度

また、学生がボランティア活動への参加を希望した場合、初回での入会は認めていません。活動をまず体験してもらい、理解を求めた上で入会を確認しています。無理に入会させることがないように配慮し、参加しやすい環境づくりをしています。

さらに、積極的に参加した方には、総会の際に賞状を渡し、ボランティアにやりがいを感じてもらえるように工夫しています。

なお、ボランティア参加者の中には、警察官を目指す方も参加されています。実際に、警察官になられた方も数名いらっしゃいます。

こちらの写真が、学生に渡す感謝状です。報奨として、感謝状を渡しています。団体の総会で学生に渡して、就職活動などで活用できるようにしています。



活動資金の確保

SNS等を活用した会員、協賛企業等の募集

幸せの黄色いレシートの活用

SNS等を活用した会員、協賛企業の募集

- 活動費は、市からの補助金の他、会員からの会費によるので一定数の会員の確保が求められ、不足分を寄付等で補うことが必要。
- よって、団体のホームページで会員、賛助会員、寄付の募集を行っている。
- その結果、構成員30名の体制を維持し、約50社の賛助会員に支えられ、工夫しながら活動を継続的に維持している。



続いて、活動資金の確保に対する取組です。「SNS等を活用した会員、協賛企業等の募集」と「幸せの黄色いレシートの活用」を行っています。

団体の活動資金は、市からの補助金の他に、会員から集めた会費を前提としていることから、一定数の会員の確保が求められます。足りていないという実情があり、不足分を寄付等で補っています。団体のホームページで会員、賛助会員に対して寄付の募集を、現在も行っている最中がございます。その結果、構成員30名の体制を維持し、約50社の賛助会員に支えられ、工夫しながら、活動を維持しています。

次に、「幸せの黄色いレシート」です。これは、イオンリテール株式会社によるボランティアを応援する仕組みで、活動に賛同した方が応援したい団体のボックスに買い物したレシートを入れることにより、レシートの合計金額の一部を団体の活動に役立てられる制度です。私たちはこの制度を利用して多数の飲み物等を受領し、警戒活動などのときに出す飲み物として活用して、経費削減の工夫をしております。

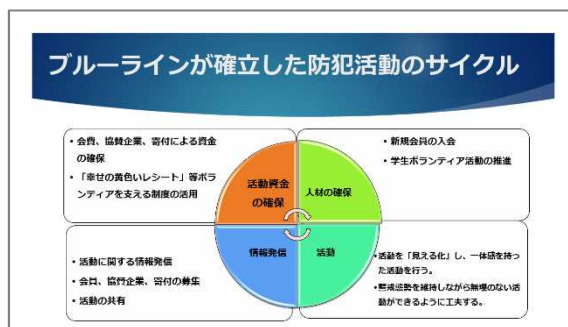
「幸せの黄色いレシート」の活用

イオンリテール株式会社による「幸せの黄色いレシート」というボランティアを応援する仕組みを利用し、活動に賛同した方がレシートを入れてくれたことにより、多数の飲み物等を受領し、警戒時の飲み物等に活用した。



これまで私たちの活動を紹介してきましたが、
私たちが確立した防犯活動のサイクルについて
説明します。

私たちはメンバーが無理なく活動できるよ
うな環境を構築し、SNS を活用することで活動を外
部に発信したり、内部で共有したりしています。
また、会員や協賛企業を募集して活動資金を確保
し、活動を実施しています。このサイクルを、繰り返すことによ
って、地域の防犯活動を高めよ
うという狙いがあります。



今後の展望

- ブルーラインのメンバーには事業主も多く、事業活動で得たノウハウを活動に生かすことができる。
- 今後は活動で得たノウハウを様々な団体に還元していくことを目標としている。

ノウハウを活動に生かすことができます。

今後は、活動で得たノウハウをさまざまな団体に還元していくことを目標としています。防犯活動や防犯パトロールに興味のある自治会や団体様がいらっしゃいましたら、間口は広げていますので、私たちの今までやってきたノウハウを提供いたします。そして、より防犯の輪が広がることを期待しております。

以上となります。ご清聴ありがとうございました。

今後の展望です。

ブルーラインの会員は各々仕事があり、活動を強制することができません。それでも SNS を活用して活動の情報共有を図るとともに、活動日程の調整などに柔軟に対応して、一体感を持った活動を継続してきました。

会員には事業主も多く、事業活動で得たノウ

講 評

常葉大学 教育学部 生涯学習学科 教授 木宮 敬信

ご発表ありがとうございました。今回の発表団体さんは防犯に特化した団体であること、それから青パトをベースにした活動ということでエリアが広い。いわゆる、地域活動の延長線上というよりは、もう少し広い。もともと青年会議所の方々が中心に作られたということで、広い地域を対象とした活動であることが、1つの特徴だと思います。

ご発表の中で、お仕事をされている方が活動していることが多いというお話がありました。いろいろな団体さんの活動を見ておりますが、この世代の方々が登場するのは非常に難しいことだと思います。高齢者であるとか、母親であるとか、そうした方々が防犯活動をしているケースは多いのですが、働き盛りの方が、なかなか時間もない中で、そして家庭もある中で、防犯活動に

お手伝いいただくのは非常に難しい。ただ、その年代の方に登場いただけるのは、今後の継続性や防犯上の効果を考えても、非常に良いと感じるところです。

青パトを活用して夜間、自分の仕事の影響のない範囲で活動いただくことについては、これは他のところでも真似できるのではないかと感じました。

さらに、SNS を使うというお話がありました。今時のやり方ということで、情報共有や情報発信、さらに賛助者を募ることで、一定の効果を上げているのだらうと思います。これについても、やはり若い方々、現役の方が多くいらっしゃるものが、SNS の活用につながっているのだらうと思います。

また、賛助会員が 50 社もあるというお話でした。最近ではガソリン代も大変ですから、維持するのが難しいことは、十分推察されるところです。そうしたとき、自分が汗をかいてお手伝いするのは難しくても、賛助会員という形で防犯活動にお手伝いいただける方がいる。活動エリアが広いので、そうした方がたくさんいらっしゃるのだらうと思います。普段の仕事の延長線上で、そうした賛助会員の方々が増えていくということも、おそらくあったのではないかと思います。こうして、多くの方々から活動資金を捻出していくこと。そして、SNS を使って見える化すること。これも、多くの団体の悩みを解消するヒントになるのではないかと感じました。ありがとうございました。以上です。

YGUディターレントクラブ（山梨県）

皆さん、こんにちは。山梨学院大学ディターレントクラブ代表の遠藤佳斗と奥秋彰人がご説明いたします。

最初に団体概要、次に活動内容、課題、そして課題の解決策について、ご説明したいと思います。



目次

1. 団体概要
2. 活動内容
3. 課題
4. 課題の解決策

1. 団体概要

- ・山梨学院大学の学生が中心となって活動しているサークル
- ・活動 毎週水曜日 18:00~
- ・部員数 16名
- ・活動方針 地域の安心・安全を目指して防犯パトロールや犯罪防止活動に取り組む



私たちディターレントクラブは、山梨県甲府市にある山梨学院大学のサークル団体の学生が中心となって活動しているサークルでございます。

私たちは主に、大学周辺のパトロール活動や小学校の下校見守り活動などを行っています。

部員は16名で、主に毎週水曜日の18時から活動を行っております。

ディターレントクラブの「ディターレント」には、英語で「抑止力」という意味があります。言葉の意味が表す通り、警察や各種防犯団体などと連携しながら、大学周辺の治安維持を目的とし活動しています。

また、この団体は、2004年に山梨学院大学キャンパスに隣接したコンビニエンスストアで強盗事件が起きたことをきっかけに、当時のゼミ生たちが協力して設立したもので、現在も活動しています。

- ・YGUディターレントクラブの「ディターレント (Deterrent)」とは『抑止』という意味があり、言葉の意味が表すとおり、当団体は、警察や各種防犯団体などと連携しながら大学周辺地域の治安維持を目的として、2004年に設立されました。

2. 活動内容

- (1) 大学周辺のパトロール兼清掃活動
- (2) 駅の自転車施錠チェック
- (3) 小学校の下校見守り活動
- (4) 甲府警察署と合同による防犯活動
- (5) サイバーパトロール

(1) 大学周辺のパトロール兼清掃活動



パトロール風景



清掃活動風景

活動内容についてご説明いたします。最初に、大学周辺のパトロール兼清掃活動についてご説明したいと思います。

私たちの主な活動は、大学周辺の防犯パトロールです。児童・生徒の通学路や、駅などを中心に見守りを行い、挨拶活動も一緒に行い、防犯活動に取り組んでいます。

パトロールを行うときには、活動しやすいように2つから3つの班に分けて、班長、後方確認、緊急時に通報する人などを決めて、何かあった際にはすぐに行動できるようにしています。

また、班では、その日の目標を一人一人発表し合い、パトロールに取り組む意識を高めています。そして、パトロールが終わった後に、その目標に対しての反省をすることで、次に活かせるようにしています。

防犯パトロールとともに、清掃活動も行っています。パトロール経路の清掃活動を行うことで地域のゴミを少なくし、また、ゴミが少なくなることでその場の環境が良くなり、犯罪が減少するという割れ窓理論を実践して、直接的なパトロールだけではなく、間接的な清掃活動を通じて、犯罪の減少を目指しています。

私たちはパトロール活動のほかに、自転車の盗難防止活動も行っています。

主な活動場所は、当大学の駐輪場や、近隣の駅である酒折駅です。施錠されていない自転車が合った場合には、こちらに表示した記録フォームに自転車情報を記録します。盗難が起きた際には、警察等にすぐに情報提供できるように記録をします。また、自転車の施錠確認だけでなく、綺麗な駐輪場を目指して、放置自転車があれば駐輪場の端に寄せたり、そのほかの自転車も綺麗に並べたりしています。

時間活動外には小学校の、主に1、2年生の下校見守り活動も行っています。この小学校は里垣小学校といいますが、その地域の住民の高齢化により小学校の防犯ボランティアがなくなったことをきっかけとして、この活動を始めました。私たちは学生のため授業の関係もあり、多くても週

(2) 駅の自転車施錠チェック



(3) 小学校の下校時の見守り活動



イメージ図

に1回ほどですが、時間があるときにはできるだけ、1、2年生が安全に下校できるように、付き添いながらパトロールを行っています。

それ以外にも時間活動外の活動として、甲府警察署と合同の防犯活動も行っています。

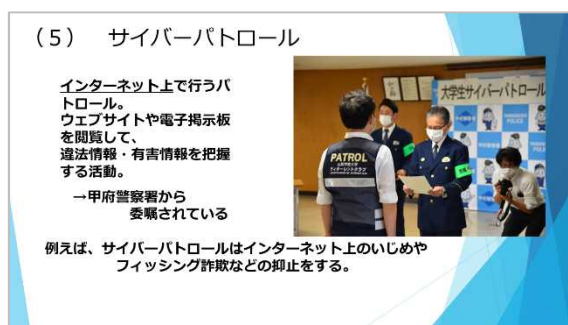
交通安全強化月間などをはじめ、山梨県警の方と合同で、定期的に防犯パトロールを実施しています。防犯パトロール以外にも一緒に活動することで、防犯やパトロールの知識の向上につながります。

昨年度は酒折駅や山梨学院構内で、「自転車に施錠してください」と、チラシや鍵を配布しながら呼びかけをしたり、合同パトロールを行ったりしました。

また、今年度は朝の通勤時間帯に、甲府駅で高校生と、そして甲府警察署と合同で、自転車の施錠についての呼びかけを行いました。

次に、サイバーパトロールについて説明します。

私たちは、甲府警察署から NET SEARCH 404 というものを委嘱されて、SNS 等のサイバー空間において犯罪が起きないように監視しています。若い世代の目線で、犯罪情報や有害情報があった場合には警察署へ連絡するという形で活動しています。



3. 課題

- (1) 甲府駅、酒折駅、山梨学院大学構内の駐輪場等での自転車盗難の発生
- (2) 学生のITリテラシーの向上

4. 課題の解決策

- (1) 自転車盗難のパトロール強化
- (2) 自転車施錠のポスター掲載
- (3) ITリテラシーの重要性を理解し学生に広めていく

次に、私たちの活動における課題について発表します。

私たちの地域、甲府駅や酒折駅、山梨学院大学構内の駐輪場では、自転車盗難が非常に多いこと。そして、学生のITリテラシーを向上させること。これらが、私たちの主な課題であると考えます。そして、その解決策です。

自転車盗難の場合はパトロールの強化。それから、「施錠してください」というポスターを掲載します。

ITリテラシーの場合には、自分たちでその重要性を理解して広めていく。これが解決策になると思います。

では、パトロールの強化について説明します。

盗難される自転車は、ほとんどが鍵をしていない状態です。そのため、盗難されないように鍵を配布したり、二重ロックの呼びかけをして、さらなる防犯をしてもらえるようにワイヤーロックの配布をしたりします。

また、自転車が置いてある場所のパトロール回数を増やすことで、狙われにくい場所にします。

さらに、大学内での自転車の施錠チェックを増やすことで、もし構内で盗難が起こった際には、警察にその情報を素早く提供し、有効活用できるようにしたいと思います。

次は、自転車施錠のポスター掲載についてです。このような、自転車の施錠を促すポスターを制作して、掲載していこうと思っています。ポスターには、盗難が増えていることについての注意喚起や、鍵をすることの大切さを知ってもらえるような内容を書きたいと思っています。

また、自転車を盗んでしまう人の中には、「少しだけ足に使いたいから」と、気軽に乗って行ってしまっている人がいると思います。そうした方へ「その行為は窃盗という重大な犯罪になる」とアナウンスして、気軽に乗らないように、そうした犯罪を起ささないように伝えていければと思っています。

次に、ITリテラシーの重要性を理解して学生に広めていくことについてです。


まず部員たちがITリテラシーについての重要性や、ネットの危険性を理解すること。これが一番重要だと思います。「ITリテラシーがないとどんなことが起きてしまうのか」などを学生同士で話し合い重要性を理解したら、それについてのポスターを制作し、学校などに貼り出して、学生に広めていきたいと思っています。

また、サイバーパトロールを通して違法行為や有害行為を把握することで、今、何が起きているのか学生にも知ってもらえるように、呼びかけをしていきたいと思っています。

また、私たちはSNSを運用しています。毎回、活動が終わったあとに、その日の出来事などを送っています。この投稿頻度を増やすことで、多くの人に知ってもらえるようになりました。先ほどのITリテラシーに関しても、こちらに投稿して、多くの学生などに広めたいと思っています。

(1) 自転車盗難のパトロール強化

- ・二重ロックやカギをかけていない人へのワイヤーロックの配布
- ・自転車のパトロール回数を増やす。
- ・山梨学院構内の自転車の施錠チェックを増やす。
(甲府駅での自転車施錠チェックも検討中)



(2) 自転車施錠のポスター掲載



イメージポスター

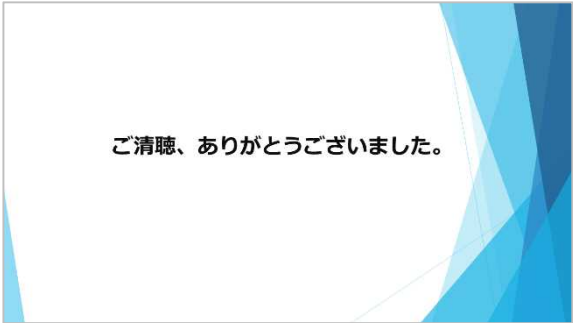
(3) ITリテラシーの重要性を理解し 学生に広めていく

- ・部員同士でITリテラシーについて話し合い、危険性について理解する。
- ・サイバーパトロールを通して違法や有害情報を把握し、情報を学生に呼び掛け、意識向上を目指す。
- ・SNSの活動頻度を増やし、ネットの危険性について促す。



最後になりますが、この活動を通して多くの方に知ってもらえるように、より工夫をしていきたいと思ひます。また、主に、学生が主体となって防犯活動を行っていますが、甲府警察署の方とも協力し合いながら、地域の安心・安全を目指して、これからも活動していきたいと思ひます。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。



ご清聴、ありがとうございました。

講 評

常葉大学 教育学部 生涯学習学科 教授 木宮 敬信

今回は大学生の防犯サークルということで、これまでとは違った属性の方々による活動報告をいただきました。ありがとうございました。

私も大学で教えている側ではありますので、いろいろな大学で防犯活動がサークル化され、活動されている様子はよく見えています。

こちらは2004年から活動している団体ということですから、もう20年ぐらい継続されてきているわけです。大学では当然ながら、学生は4年ごとにどんどん入れ替わっていくので、長く活動を継続していくのは難しく、毎年、新しい人を獲得しなければいけないという状況もあります。また、この数年間のコロナの間に、多くの大学がオンラインになったことによって、サークルの継続が難しい状況になっていることも、十分に分かっています。そうした中で継続的に活動をされている。先ほど、「山梨県警の予備軍」とご紹介もありましたが、卒業後も、防犯などの活動について期待のできる若者たちだと感じた次第です。

大学生という良さもあれば、当然、学業があり、さまざま難しい面もあります。おそらく多くの地域で、ボランティア活動が高齢化するなど、人が少なくなって維持できない中で、大学生の若い力をうまく活用したいと考えているところは、たぶん、たくさんあると思ひます。ただ、それをどう活用したらよいか分からない。どう連携してよいか分からない。大学に行って、単に「ボランティアをやりませんか」などと募集をしても、人が継続的に集まることは難しい。こうした悩みごとというのは、共通しているのではないかと思ひます。

例えば、大学で学んでいることを活かす。情報系の学部を持っている大学ならば、サイバーパトロールを引き受ける。教育系の学生ならば、子どもたちの見守り活動をする。そうした、「学び

との親和性」のようなものがあれば、大学のゼミ活動などと連携することは比較的に見えやすいところではあります。

しかし、そうでない場合、連携の糸口を見つけるのはなかなか難しいかもしれません。そうした中で、このように長く続けられている団体さんは、一体どのように新入生を勧誘しているのか、どのように地域や警察と連携しているのか。こうしたノウハウを、ぜひ、他の地域も学ぶとよいと感じました。

また、警察の関わりという部分で言えば、これはすでにされているかもしれませんが、例えば学生のサークルや部活動ではコーチ、いわゆる指導者役の存在がいます。防犯ボランティアについても、やはり、コーチのような立場の人間がいると、非常によいと思うのです。犯罪のさまざまな手口や状況、活動の仕方など、いろいろなことを教えてくれる大人の存在、そうした方々が学生に対して指導をして、学生がそれを学び、さらに学生がコーチの立場になる。こうした循環が進んでいくと、地域全体として若い力をうまく活用できるのではないかと思います。

また、将来的な希望と言いますか、期待を込めて言うと、例えば多くの大学がこうした防犯ボランティアのサークルを持っていますが、これの全国大会みたいなものがないかと思うのです。他の大学さんのサークルと交流するのは、地域が近ければ、ある程度はできると思います。しかし、遠く離れた地域でも、同じような志で活動している学生がいます。「自分たちはこんなことをしている」「こんなことはどうだろう」といった、いわゆる学生ボランティアサミットみたいなものが警察の主導などで開かれれば、学生たちのモチベーションを維持したり、新たな部員を獲得したり、そうしたところに役立てられるのではないかと感じました。これは、大学生だけではなかなか難しいことです。いろいろな大人の手を借りながらそうしたことができると、より若者の力を利用しやすいだろうと思った次第です。以上です。ありがとうございました。

相良ドラゴンズクラブ 88（静岡県）

こんにちは。ようこそ静岡県にお越しくださいました。フレッシュな若い皆様のご発表のあと、孫を3人持つおじいちゃんからの発表です。

皆さんの素晴らしいパワーポイントを拝見しました。こちらは初心者の私が作成したので、あまり見栄えは良くないかもしれませんが、見ていただけたらと思います。

また、県警にパワーポイントを提出したあとで、「市の案内をしてください」と言われたものですから、市の案内や活動場所などがこちらには載っておりません。ですから、本日は会場の後ろに、牧之原市を紹介する小冊子を置いておきます。また、今、巷で話題の、牧之原市のサーフスタジアムの資料もあります。全国でここだけ、公認のサーフスタジアムです。今月初めには、障害者の皆さんの、サーフィンの世界大会が行われました。横幅が150m、奥行きが60mで、どんな波も再現でき、初心者からプロまでサーフィンを楽しめます。ここは今、我が町の一番の旬です。手ぶらで来ていただければサーフィンができますので、ぜひ、今年の夏はおいでいただければと思います。

また、うちの町と言えばお茶です。静岡県が全国で生産量が一番なのですが、その静岡県の中でも牧之原市が、生産量が一番です。お茶農家が多いということです。



「関東ブロック防犯ボランティアフォーラム」
『無理なく・楽しく・真面目に防犯活動！』
【牧之原市と勝手に協働（軒先運動）】

相良ドラゴンズクラブ88
青色パトロール代表
河野 研 司
令和5年7月29日
静岡市レイアップ御幸町ビル5F「5-D」

相良ドラゴンズクラブ88 紹介①

- ・ 設 立 1988年 8月8日
- ・ 相良ドラゴンズクラブの2世会
昭和40年代 旧相良町消防団の本部役員として活躍した12人によって設立されたのが、『相良ドラゴンズクラブ』である。
当初より町の防火、防犯や地域の活性化に尽力した会である。
本会は相良ドラゴンズクラブの高齢化と次の世代に活動を継承するため1988年8月に2世（長男）が設立したものであります。

それでは発表させていただきます。

「相模ドラゴンズクラブ 88」。少し変わった名前ですが、うちの団体は、もともと防犯に特化して作った団体ではありません。私たちの親が昭和40年代に、合併前の旧相良町というところで消防団に入っていました。その本部の団長、副団長を務めた親たちが作ったグループです。その後、消防団が終わって、「せっかくこれだけ仲良くなったのだから、地域のために何かしようよ」と、親たちがドラゴンズクラブというものを作りました。半数は町会議員になるなど、いろいろな形で町に貢献した人たちの二世がその後、1988年に作った会が、「ドラゴンズクラブ 88」です。

当初の 12 人のうち、病気で亡くなる方もありまして、現在は 71 歳から 57 歳の 8 人で活動しています。なんとと言っても親の代から 60 年、そして自分たちが結成してから 35 年、メンバーの入れ替えがありません。会を維持する・しない、ということが一切ありません。防災や防犯を「やらなければいけない」ではなくて、この会の活動の 1 つとして行うという形です。ですから、悩みは少ないです。

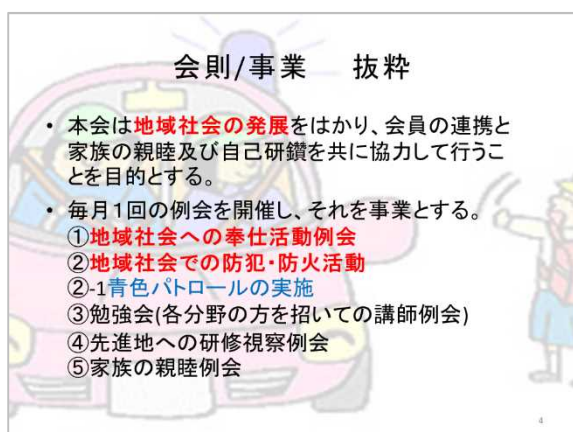
35 年間、毎月、例会を開催しています。ですから、町の情報を皆で共有できます。

また、私たちは、職種が全員違ってきます。中には金融界の会長経験者、飲食の会長経験者もいます。私も市の公民館の運営審議会の会長をしました。こうした役職についている人間が多いものですから、いろいろな情報が集まってきます。

活動費は、毎月の会費のみです。先程来、皆さんから予算などのお話を聞いていて大変だと思っていました。私たちは自分たちが好きで青パトをやっているものですから、自分たちがガソリン代を払えばよいし、また、補助金をいただいているという強みがあるのです。だから、自分たちができるときにやればよい。足かせができると「やらなければいけない」「計画も立てなければいけない」という、つらいところがあります。だから、「完全なボランティア活動」です。

私たちは、2006 年から青パトに参加しました。

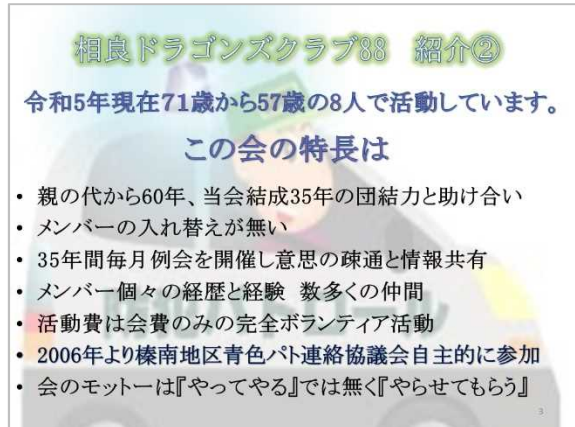
同じ警察署管内で青パトをしている他の団体は、市からお願いされ、回転灯やベストを用意していただいて活動しています。しかし、私たちはこちらからお願いして、青パトをさせていただいています。その当時、もっと地域に貢献できることはないかと全員で話し合った結果、青パトをしようということになり、全員の身上書を警察へ持っていき、「このメンバーで青パトをやらせてください」とお願いして、承認していただいたのです。



会則/事業 抜粋

- 本会は**地域社会の発展**をはかり、会員の連携と家族の親睦及び自己研鑽を共に協力して行うことを目的とする。
- 毎月1回の例会を開催し、それを事業とする。
 - ①**地域社会への奉仕活動例会**
 - ②**地域社会での防犯・防火活動**
 - ③-1**青色パトロールの実施**
 - ④**勉強会(各分野の方を招いての講師例会)**
 - ④**先進地への研修視察例会**
 - ⑤**家族の親睦例会**

このように、私たちの会のモットーは、「やってやる」ではなく「やらせてもらう」です。ボランティアの基本は「やらせていただく」。これをモットーに、地域社会への防犯・防火活動などをさせていただいています。厚木のブルーラインさんの発表にもありましたが、私たちも半数が青年会議所の OB です。私もそうです。阪神大震災のときや、日本海に重油が流出したときに自分は現役だったものですから、そちらへ行きまして、ボランティア活動をさせていただきました。そうしたノウハウがあります。東日本のときには、現場には行けなかったのですが、地元で、物資を効率良く運ぶお手伝いなどは、会のほうでさせていただきました。



榎良ドラゴンズクラブ88 紹介②

令和5年現在71歳から57歳の8人で活動しています。

この会の特長は

- 親の代から60年、当会結成35年の団結力と助け合い
- メンバーの入れ替えが無い
- 35年間毎月例会を開催し意思の疎通と情報共有
- メンバー個々の経歴と経験 数多くの仲間
- 活動費は会費のみの完全ボランティア活動
- 2006年より榛南地区青色パト連絡協議会自主的に参加
- 会のモットーは『やってやる』では無く『やらせてもらう』

主な防犯活動

- ・ 牧之原市の【軒先運動】へ協力
相良町時代に軒先運動の立ち上げに参加
それ以後 現在まで協力し参加している。
- ・ 2006年より榛南地区青色パト連絡協議会
に参加し青色防犯パトロールを開始する。



ドラゴンズクラブ88としての防犯活動 ①

- 軒先運動（登下校時の子供たちの見守り）
- イベント時の駐車場等の青色パトロール
- 行方不明者等の捜索青色パトロール
- 災害時における防災ボランティア活動
- 毎月一回の例会で情報共有と親睦

※メンバーは現役で働いて居る為、青色パトロールは基本夜間に行います。

主な防犯活動としては大きく2つ、「青色防犯パトロール」と、「軒先運動」があります。

牧之原市の合併前の相良町時代、たまたま教育委員会に出向で来た先生が同級生で、何か地域に役立つことをしたいと話をしていたとき、「では、軒先運動はどうだろう」という話になりました。「軒先運動」は、後ほど説明しますが、私たちの会の柱の1つになっています。

イベント時の青色パトロール、行方不明者等の捜索青色パトロール、災害時における防災ボランティア活動は、今までのノウハウを活用して行います。

私たちの町は5万人ほどの小さなところですが、毎年夏にはWINDBLOWというレゲエの大きな大会が行われ、何万人も来場します。私たちも皆、仕事を持っているものですから、夜間にパトロールをします。WINDBLOWや花火大会などのイベントのときは車上狙いも起きますので、駐車場や新興住宅地を中心に、パトロールをしています。ときには理解が得られず、汚い言葉を浴びせられることもあります。フェスで「ポリ公、出ていけ」と言われて、「いや、僕たちは“ポリ公”ではないのだけれど」と思いながら、パトロールをしたこともありました。

ドラゴンズクラブ88としての防犯活動 ②

※ イベント時の駐車場等の青色パトロール

活動拠点の相良地区では、1年を通してイベントが多く、夏の海水浴シーズンをはじめ全国から若者が集まる【WIND BLOW】や海上花火大会等が夜間催されるため夜間駐車場や住宅街を中心にパトロールしています。

【市との連携/軒先運動】



夕刻 部活帰りの中学生の見守り



【市や警察で情報共有】

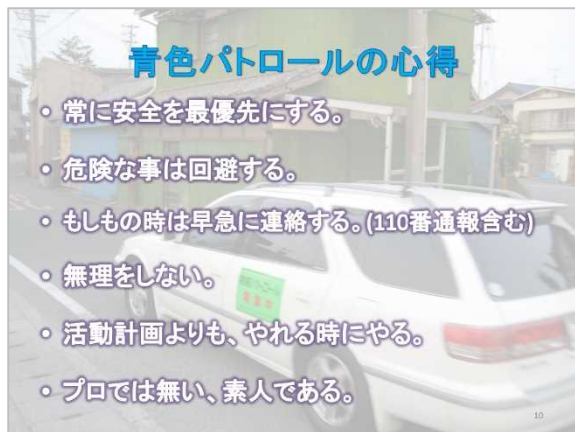


牧之原市LINE

静岡県警 アプリ

また、市と連携して、このときは夕方、中学生の下校の時間に見守りをしました。

市や警察との情報共有もしています。市が、市民の皆さんと LINE でつながろうということで、一生懸命やっています。レスポンスがかなり早いのです。市の LINE がかなり早く入ってきます。それと同時に、静岡県警が提供する「どこでもポリス」のアプリを通じて、直ちに情報が入ってきます。それにより、ピンポイントで青パト出動し、見守ることができるので、非常に役に立っています。



青色パトロールの心得です。

他の団体の皆さんとほとんど同じなのですが、常に安全を最優先、危険なことは回避、もしもの時は早急に連絡する、無理はしない。

そして、活動計画を遵守することよりも、とにかく、やれるときにやる。それが一番、長続きする方法です。

そして何より、「プロではない。あくまでも素人である」。パトロールに関しては、ただ青色をパタ

パタさせるだけなのです。それ以上のことは、一切しない。このように活動しております。

そして、活動をしたら署に「実施しました」と、「青色防犯パトロール実施結果連絡表」を上げています。

青色防犯パトロール実施結果連絡表

《『相良ドラゴンズSS』 青色防犯パトロール実施結果連絡表》
 牧之野警察署・生活安全課/生活安全係(電話) 054-22-6115

実施日時: 2023年11月15日(水) 18:00~19:00
 実施場所: 相良町(相良駅前・相良地区) 実施目的: 地域防犯パトロール
 実施者: 相良町防犯パトロール実行委員会(代表) 連絡先: 054-22-6115

実施内容: 相良駅前・相良地区を巡回し、地域防犯パトロールを実施しました。地域防犯パトロール実施結果を報告し、地域防犯パトロール実施結果を報告しました。

- 実施結果での意見**
1. 夜の青パト実施は、夜に比較して効果が実感しにくい。
 2. 他の防犯活動団体との関係が希薄(市や警察署の縦割り)。
 3. 青パト実施が1人乗車でもOKになったので、メンバーの活動が楽になった。
 4. 夜の青パトは大変目立ち、防犯の啓蒙には最適。
 5. 青パト活動は防犯だけでなく、交通安全の啓蒙にも役立つ。
 6. 市からのLINE等を活用した素早かつ確かな情報提供が役立つ。

以前は、昼間にも活動できる時間がときどきあり、パトロールをしたことがあります。しかし、昼間の青パトは効果を実感しにくい。上の回転灯が反射しないものですから、やはり効果が薄れているのではないかと思います。

また、他の防犯団体との関係性ができません。これは行政の縦割りが要因の1つだと思います。できれば生活安全課だけでなく、地域課や、交番の皆さん方も、もう少し情報共有ができたらしめます。特に、交番です。交番のほうが、やはり、自分のところの情報を早く持っています。そちらとの情報交換ができればよいと思っています。

とにかく、青パトは目立ちます。防犯の啓蒙には最適だと思います。さらに、防犯だけでなく、交通安全の啓蒙にも役立ちます。夜に青パトで流していると、周りの車が急におとなしくなります。スピードを出していた車が、正しい車間距離で運転してくれるようになります。ですから、

自分たちが青パトで流しているだけで、防犯以外にも役立つことが非常に実感できます。

もう1つ、「静岡まきのはらフィルムコミッション」という映画の撮影グループと連携し、いろいろな形で協力させていただいています。



直近では昨年9月に封切りした、福山さんや柴咲コウさん出演の『沈黙のパレード』に協力しました。この通りが私の布団店の前なのですが、この通りを3日間掛ける3回、都合9日間封鎖して、パレードの様子を撮影しました。大変な賑わいでした。映画は終わりましたが、Netflix や Amazon プライムで見られますので、よろしければご覧ください。パレードのシーンで「ふとん」と

いう看板が出てきたら、私の店です。

この、お肉屋さんのシーンを撮ったときも、ドラゴンズのメンバーの店が使われました。ここでは非常に大事な、室素を詰めるシーンが撮影されました。いろいろとお手伝いしたからこそ、私も柴咲コウさんと二人だけのシーンで映画に出られたとか、吉永小百合さんに会わせていただいたとか、多少の役得はありました。このように、いろいろな形で協力させていただいています。

こちらは、各所属団体への提案です。

先ほど述べたように、メンバー各々がドラゴンズ以外の団体に入っています。これは皆さんもそうだと思います。厚木のブルーラインの皆さんもJCにいたとのことですから、ライオンズ、ロータリー、同友会、いろいろなものと一緒になって活動していると思います。私たちも、そうしたところへ働きかけをすることによって、商工会へ青パト2台、市役所へ青パト3台、新車を入れていただきました。通常の作業でも使っていますので、本当にこれは大きかったと思っています。

また、車まではもらえませんが、実は今、私が着ているビブスは市から貸与されたものです。ビブスは夏用で、冬になるとジャンパー、そして帽子もあります。これは軒先運動に登録をしないと、市から貸与されるものです。

平成24年に、私が商工会の商業部会長をさせていただいたときには、既に青パトが始まっていました。商工会長とお話をして、登録事業所全部が警察署に協力するという話になり、「暴力団撲滅」と「振り込め詐欺防止」に協力するためのシールを作って、お店のレジ周りに貼りました。そして、その活動を新聞で紹介していただきました。

各所属団体への提案①

- ・メンバー所属の各種団体への防犯活動の働きかけ



- ※商工会への青パト車寄贈 2台
- ※市役所への青パト車寄贈 3台
- ※軒先運動ジャンパーの寄贈(数社)

14

各所属団体への提案②

平成24年11月15日
当会で発案し、牧之原商工会役員の河野(当時商業部会長)が商工会で事業化。約1700の事業所に配布。
牧之原警察署と暴力団排除推進等の協定を締結する。



事業所/店舗用シールの作成配布

15

こちらは先ほど申し上げた、うちの商工会にいただいた青パトです。2台、新車でいただきました。青色回転灯は既に付いていますので、その都度付ける必要はありません。職員が、用事があって会員のところに行くときには、青パトに乗っていくことになります。回転灯を回さなくても、啓蒙活動にかなり寄与しているのではないかと思います。

各所属団体との協働

- ・ 牧之原市商工会
- ・ 全国初の専用車で青色パトロール参加

ドラゴンズクラブ®
藤山 隆(商工会 元 副会長)
河野 明司(# 現 監 事)



牧之原市の取組み 《軒先運動》



平成12年より県内初の試みとしてスタートする。(旧相良町)
現在では、既存の団体だけでなく軒先運動のグループが増えている。

17

【軒先運動】



- ・ 基本的な活動(見守る眼で市内を網羅)
 - ① 登下校時に自宅の軒先に出て子供たちを見守る。
※出来る時で良い。
※毎日16時に全市内に見守りの同報が流れる。
 - ② それ以上の活動には登録し専用のベストや帽子等が市から貸与される。

18

それでは、先程来申し上げている「軒先運動」についてご紹介します。

平成12年から県内初の試みとして、軒先運動を始めました。平日、16時になりますと、月替わりで子どもの声で、「4時になりました。子どもたちが家に帰る時間です。軒先に出て、子どもたちを見守ってください」という防災無線が流れます。それを合図に、地域住民の皆さんが家の前へ出る。それだけです。何も交差点まで行かなくてもよいのです。「出られる人は家の前に出て、子どもたちが帰ってくるのを見守ってください」というのが、軒先運動です。

「それ以上のこともできる」という方には登録していただきます。そして、このビブスやジャンパー、帽子を貸与し、グループを作って交差点まで行って、交差点の見守りを行います。

それはやはり、自発的に来た方でなければ続きません。あくまでも、自発的に来てくださる方には、そのようお願いしています。そうでない皆さんには、「とにかく、家の前に出てください」。

貧乏な町ですし、田舎ですので防犯カメラもそれほどありません。コンビニに付いているくらいです。しかし、この市民の目が、防犯カメラの代わりになるわけです。皆さんに家の前に出ていただければ、それが膨大な数になるわけです。

私の町も合併して17年です。相良町と、榛原町という2つの町が1つの市になりました。この軒先運動は、もともと旧相良町でやっていたものです。旧相良町では、軒先運動はやはり、先行しているのです。合併した榛原町では、あまり進ん

【軒先運動】

- ・ 基本的な活動補足
 - (1) 玄関や庭先で、下校する子どもたちの姿を見守っていただく。
 - (2) 軒先に立って、子どもたちに「おかえり」と声をかけ、後ろ姿を見届けていただく。
 - (3) 家のまわりの通学路を、下校する子どもたちといっしょに散歩していただく。
 - (4) 農作業中、ちょっと手を休めて、下校する子どもたちを見守っていただく。
 - (5) お店の前で、下校する子どもたちに声をかけていただく。

19

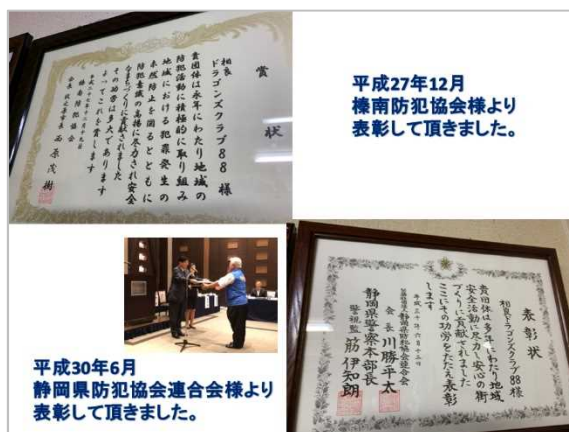
でない。それが顕著に出ているのは、県からのアプリで情報が来るときです。不審者の声かけや盗撮といったものが、この相良地区ではありません。どうしても榛原地区のほうが、不審者情報が多くなります。一般の方が前に出ているだけですが、その抑止力は本当にすごいと、実際にデータでも実感できます。

散歩などしなくてよいのです。農作業をしながら、「お帰り」と手を振ればよいのです。これが全市的に広がっていけば、声かけ事案や盗撮事案がもっと少なくなるだろうと思います。

先ほども申し上げたように、登録した方は、このようにジャンパーや帽子を身につけます。これは「あるある」ですが、自分の家の前に出るだけであればその家の人ですから、不審者ではありません。ところが、自分の家以外のところに立って声かけすると、不審者になる可能性があるのです。これが、声かけの難しいところです。ですから、家の前以外の場所で声をかけるには、こうしたビブスや帽子など、「防犯活動をしている人です」というものが重要です。そうしないと子どもたちから「変な人に声をかけられた」などと言われてしまうのです。ですから、家から離れたところで活動する方には、ぜひ登録してくださいと言っています。

今日も、市から総務部長と教育委員会の課長が来ています。そちらでいろいろと予算をつけてもらい、ジャンパーなどを貸与しています。

おかげさまで、市や県からときどき、「よくやったね」と褒めていただきます。表彰もしていただきました。



今後の防犯活動

- ◎無理なく・楽しく・真面目に活動する。
- ◎安全に行動する。
- ◎地域や仲間との絆を大事にする。
- ◎自分達が行動する事で地域の防犯意識(軒先運動等)を高めたい。

**上記をモットーに
ドラゴンズクラブ88のライフワークとして
末永く防犯活動をしていきます。**

今後の活動としましては、無理なく楽しく、そして真面目にやっていく。

安全に行動する。

地域や仲間との絆を大切にする。それは、自分たちだけがやっているという奢りではなく、皆を巻き込んで楽しくやっということうことです。

自分たちが行動することで、こういう軒先運動等の動きが広がっていけばと思います。会自体は、「真似してください」とは、とても言えるものではないのですが。

牧之原市としては、軒先運動を一緒にやってくれる団体が増えて、一人でも多くの人に登校時や下校時に家の前に立っていただく。これを目指して、今後もやっていきたいと思えます。

以上で終わります。ありがとうございました。



講 評

常葉大学 教育学部 生涯学習学科 教授 木宮 敬信

大変エネルギッシュな発表でした。ありがとうございました。

一言で言うと「面白い」。これまでも、他の地域でも参考になりそうなお話がありましたが、今回の、この相良ドラゴンズクラブ 88 さんの取組方法は、また 1 つ、何か新しいヒントがあると感じたところです。

タイトルでも、「牧之原市と勝手に協働」という書き方をされていました。本来は、「組織的に、あるいは「きちんとしたプロセスを踏んで」というところが一般的ではあるのですが、「自分たちのやれることを、どんどん勝手にやっていくんだ」という発想で、この 35 年間やり続けているとのこと。もしかしたら、これが防犯ボランティア団体の原点かもしれないと感じたところです。

多くの団体が、会員が減って新しい方を獲得するのが難しいという悩みを抱えている中で、出発点からのメンバーでずっとやり続け、新しいメンバーを入れないという考え方も、ある意味、非常に新しい。逆に言えば、この会が大きくなるよりも、同じような志を持つ小さなグループが他にもたくさんできればよいという発想。そもそも「団体を作ることや維持することが目的ではなく、地域防犯が目的なのだから、別に自分たちの団体でなくてもいいじゃないか」ということだと思のですが、それはまさに原点。長く続けていると、そのように考えることができなくなるのは、ボランティア団体に限らず、いろいろなところで起こることです。組織を維持することが優先されて、本来の目的が二の次になってしまうこともあります。しかし、そうではなく、目的のためのみに活動する。そこがかえって新しく、今時感といったものを感じるころでもあります。

ご紹介いただいた軒先運動について。これは牧之原市がやっているものに、「勝手に」協働していくといったやり方かと思えます。この軒先運動は、いわゆる「ながら見守り」の、かなり進ん

だ形です。同報無線で促していくという試みは、全国でも珍しいやり方だと思います。「できるだけ外に出てください」と推奨していくのが今の流れではありますが、それをさらに、「今、出ましょう」とお知らせする。そこまで踏み込んでいくのは、できる自治体とできない自治体とがあるでしょう。これは、地域性の問題でもあるとは思いますが。しかし、これを、地域を挙げて取り組んでいる。他の自治体さんでも、こうしたものを入れてみても面白いのではと感じたところです。以上です。ありがとうございました。